主要旅行会社の教育旅行に関する取り組み

教育メタバースを構築
JTB 4月に本格開校

JTBが構築した中学校・高校の探究学習、キャリア学習支援向け社会体験学習プラットフォーム「Potential Meets You Academy」（PMY Academy）が4月に本格開校を予定している。メタバース空間で企業の事業活動を学んでもらうもので、2028年までに企業60社の参画、全国1千校への導入、生徒45万人の利用を目指す。

PMY Academyは、ノーボーダーズ社（ドバイ）が開発するAI×Web3・0メタバース「XANA（ザナ）」の基盤上に展開。生徒がアバターとなってメタバース空間に公開される企業ルームを巡り、学びを深めてもらうことで、回遊性を高め、生徒個人の興味関心に応じた学習を実現した。

学習プログラムは、総合的探究の時間やホームルーム、各教科の補助教材として活用可能。登校が困難な生徒の学習支援や、放課後、休暇期間中の自主学習にも対応する。

同社は昨年12月から三菱UFJアセットマネジメント、第一三共ヘルスケア、ニチレイフーズ、明治ホールディングスなどの企業と連携し、順次教室を公開、トライアルを進めてきた。参加企業に協賛してもらうことで、学校側は費用負担なく導入できる事業モデルを提供する。

日本旅行

「脱炭素」学ぶツアー
大阪・空堀で交流体験

日本旅行は、空堀地区（大阪市中央区）を舞台とした脱炭素を学ぶ教育プログラム「大阪からほりレトロウォーク」の予約を受け付けている。大阪市の委託事業。ガイドウォークやワークショップを通じて楽しく環境問題について考えてもらう。

空堀地区は大阪城の南に位置し、古い長屋や町家の町並みが残る歴史あるエリア。プログラムには地元ガイドが街を案内する「ガイドウォーク」と、サステナブルな取り組みを推進する地域住民との「ワークショップ（交流体験）」を組み入れた。ワークショップでは、廃棄野菜や果物を使った染色体験や、昆布ミュージアムの見学など、脱炭素社会を学べる多彩なコンテンツを用意した。

オリジナルの事前学習教材も用意。従来の修学旅行と同プログラム実施時のCO_2排出量をそれぞれ算出し、可視化にも取り組む。

同社は大阪・関西万博の来場と併せたプログラムの活用を推奨しており、万博が掲げる脱炭素推進の方針に沿い、生徒の環境意識向上と行動変容を促すねらい。

学校支援人材を育成
近ツー 探究学習に対応

近畿日本ツーリストは2024年度、教育旅行営業担当者の育成を目的とした「学校支援コーディネーター養成研修会」を社員を対象に実施した。東京学芸大学（東京都小金井市）の「高校探究プロジェクト」と連携し、探究学習に対応した教育旅行の企画・提案力を育成するもので、ワークショップや実地提案、事後研修を通じて、学校の教育目標に即した旅行プランの立案を学んだ。

2回目の開催となる今年度は初級に加え新たに中級クラスを設け、初級取得者がステップアップできる体制を構築。また、研修の一環として、学校行事のコーディネートにも携わった。

万博で学ぶSDGs
共同で探究学習開発

東武トップ

東武トップツアーズとコカ・コーラボトラーズジャパンは、大阪・関西万博を活用した中学生以上向けの探究学習型修学旅行プログラムを共同で開発している。生徒が社会課題を考え、解決に取り組む力の育成を目指す。

プログラムは、「循環型社会」「生物多様性」「DE&I（ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン）」の三つを学習テーマに設定。事前学習、万博会場での実地研修、事後学習の3ステップで構成する。

循環型社会では、事前学習としてコカ・コーラ社の「ボトルtoボトル」リサイクルの取り組みを学び、実地研修として会場でSDGs関連の現場を見学。DE&Iでは、アスリートによる講義などを受けた後、東武トップツアーズがスポンサーとなる「いのちの遊び場くらげ館」などの会場施設を訪問。多様な存在価値について学習する。

参加者からは「ヒアリングなどにおいてより的確な質問ができるようになった」「旅行中だけではなく、旅マエでの事前学習、旅アトでの事後学習を意識する提案を心掛けるようになった」などの感想が挙がり、実務への効果も表れてきている。

教育旅行部新設
営業体制強化へ

阪急交通社

阪急交通社は、4月1日付で組織の一部改編を実施する。現行の法人団体営業本部の下に「教育旅行営業部」を新設し、「東日本営業部」「西日本営業部」「教育旅行営業部」の3部体制に変更。より盤石な営業体制で事業を拡大し、教育旅行事業の強化を目指す。

絵画で遊び、体験 アートに親しむ

トリックアート美術館

日本発祥の参加・体験型アート「トリックアート」。平面の絵が飛び出したり、角度により違う雰囲気の絵に見えたりする不思議なアートだ。横浜・新港地区と東京・お台場にあるトリックアートの常設館は、作品を見るだけでなく、写真に撮ったり、自由に触れたりとさまざまな体験ができる。思い出づくりとともに、芸術性を学び、発想力を養える体験・見学地と、中学や高校の修学旅行で人気を集めている。

「翼よ、あれがパリの灯だ」

横浜トリックアート迷宮館
24年、新たにオープン

横浜のみなとみらいや中心街に近い新港地区の複合施設「横浜ワールドポーターズ」に7月11日、「横浜トリックアート迷宮館」が新たにオープンした。「時空を超えた旅」をテーマに、過去、現在、未来の世界を51点のトリックアートで表現。「錯覚やトリックで時間を超えた旅を作品の中で体験していただける」（同館）。

テーマである時間の移り変わりを感じてもらうため、館内レイアウトに工夫を凝らした。広さ528平方㍍の敷地内を大きく三つのゾーンに分割し、それぞれを表現。

現在をイメージした「ヨーロッパ散策ゾーン」は、ヨーロッパ各国の名所を訪ねた気分になれるさまざまなトリックアートを展示。日本にいながらにして〝世界旅行〟が楽しめる。

作品の一つ「翼よ、あれがパリの灯だ」は、歴史的偉業である大西洋横断を成し遂げた複葉機がパリの上空を飛ぶ様子を表現。来場者は複葉機の翼の上に乗るなど自由にポーズが取れる。

過去をイメージした「ジャングル体験ゾーン」は、緑豊かなジャングルの中にある遺跡を探検しながらさまざまな危機に立ち向かい、隠し扉を探しだし、迷路を脱出してもらう趣向。

ジャングルの中から出現した巨大なサイと、サイに跳ね飛ばされた丸太がこちらに迫ってくるような臨場感あふれる「守ってくだサイ」、危険生物が飛び交う「コウモリVS毒蛇」が面白い。

未来をイメージした「未来体験ゾーン」は、トリックアートの最新作を惜しみなく投入。

地球を見下ろす宇宙船の鏡に映っているのは自分とは違う別人という「鏡の部屋」、CGのように見える画像だがまぎれもない立体物というユニークな「宙に浮くタイムトンネル」など、新しく開発したトリック、仕掛けを楽しめる。新しいギミック満載の作品はトリックアート自体の未来も表現しているという。

「鏡の部屋」

今後も継続して最新作を追加し、「進化するトリックアート美術館を目指している」（同館）。

館内を大いに楽しんでもらうため、作品の説明や写真撮影をサポートする美術館スタッフが館内を巡回している。「手描きの作品に触ったり、写真を撮ったりしながら、自然とアートに親しみ、感性や発想力を磨いてほしい」とスタッフは語る。

▽横浜市中区新港2の2の1、横浜ワールドポーターズ4階。☎045（264）9240。不定休で、午前10時半から午後9時まで営業。入場料大人1300円、中学生以下900円。

「東京トリックアート迷宮館」は、江戸をテーマにした和風のトリックアートをはじめ、多くの人気作品を展示する体験型の美術館。東京屈指の観光スポットお台場にあり、一般客や修学旅行客で年中にぎわっている。

館内に入り、まず目に

「飛び出す鳥獣戯画」

するのは「江戸エリア」。「華やかな江戸の彩」をコンセプトに、色彩豊かで親しみやすいモチーフの、和風の作品を数多く展示している。

「トリック日本」と題して、大和絵浮世絵の名作をだまし絵にして展示。北斎の「神奈川沖浪裏」で来場者がサーフィンをしたり、「飛び出す鳥獣戯画」に入り込むなど、現実と絵が一体になったユニークな写真を撮れる。

忍者屋敷では「身長が変わって見える部屋」や「隠し扉」などさまざまな仕掛けが隠されていて、自分が忍者になったような気分を味わえる。

隠し扉を抜けた先は「トリックアート名作ギャラリー」。過去の名作から最新作まで、多くの作品を展示している。

東京トリックアート迷宮館
絵巻物、浮世絵をだまし絵に

「脳トレコーナー」では、クイズ作品や人気の高い隠し絵を展示。「グッズコーナー」では、来館記念のグッズを販売している。

トリックアート美術館だからこそできる〝仕掛け〟が楽しい「リアル謎解きゲーム」（別途料金が必要）も開催中。館内で展開されるストーリーをみんなで解いていく体験は、トリックをより不思議なものにしてくれるので、お勧めしたい。

▽東京都港区台場1の6の1、デックス東京ビーチシーサイドモール4階。☎03（3599）5191。不定休で、午前11時から午後9時まで営業。入場料大人1200円、中学生以下800円。